

資料 性の多様性を尊重しよう ～保護者としてできること～

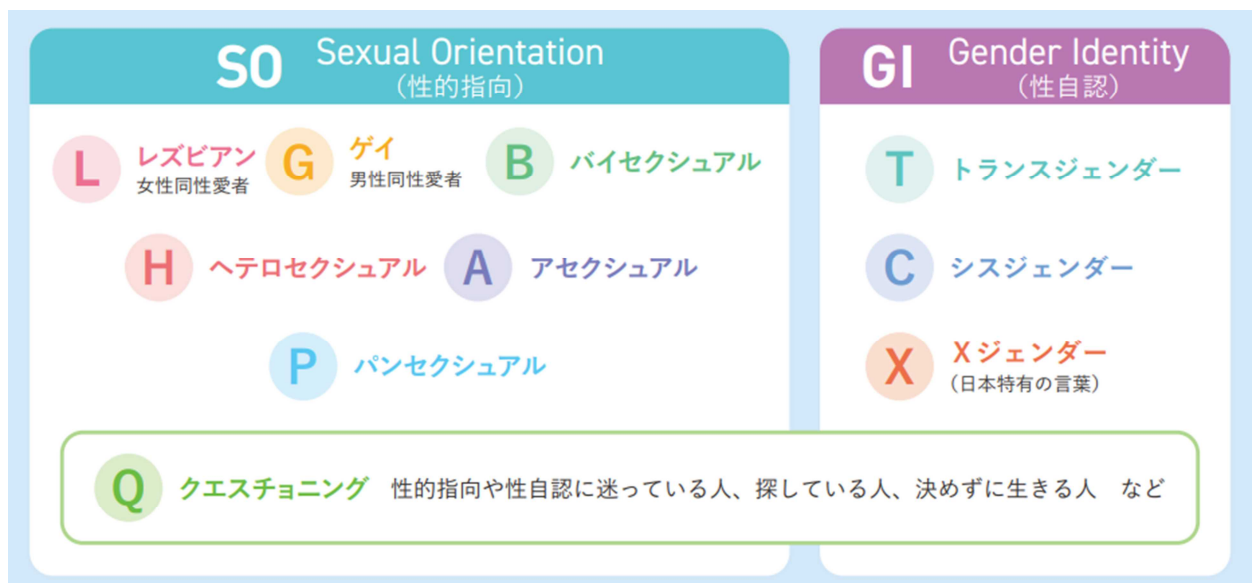
1. 性のあり方は多様であることを理解しましょう

性は、その人らしさや生き方にかかわる重要な概念です。性のあり方は、様々な要素の組み合わせによって形作られています。どちらか一方にはっきりと分けられるものではなく、「性のグラデーション」といわれます。

【性の構成要素】 身体的な性（出生時に身体的構造から医師等によって判断された性別、戸籍の性）
性的指向（どの性別の人を性的に好きになるかという指向）
性自認（自分自身が自分の性別をどのように認識しているか）
性表現（服装、しぐさ、言葉づかいなど）

【LGBT から SOGI（ソジ）へ】

LGBT は、性的マイノリティの総称として使われる言葉ですが、SOGI は性的指向と性自認の頭文字からなる言葉で、誰もが持つ属性であり、あらゆる人の性のあり方を尊重するために使われます。



ふじのくにレインボーガイドブックより

2. 多様な性のあり方を尊重した言動を心掛けましょう

性は、個人の尊厳に関わるものであり、マジョリティ（多数者）もマイノリティ（少数者）も関係なく、どの人の性のあり方も平等に尊重することが求められています。自分自身の認識や日頃の言動を振り返り、偏見や先入観にとらわれていないかを見つめ直してみましょう。

○差別的言動をしない

冗談のつもりでも、当事者にとっては大きな精神的な苦痛となります。

○日常会話を意識しよう

<不適切な言動の具体例>

「彼氏（彼女）はいないの？」

「なんでスカートはかないの？」

「男のくせに根性がない」

◆どのように言い換えますか？

男／女らしく → 「自分らしく」

娘さん／息子さん → 「お子さん」

彼氏／彼女 → 「好きな人、パートナー」



<注意が必要な言葉の例>

ふじのくにレインボーガイドブックより

Topics

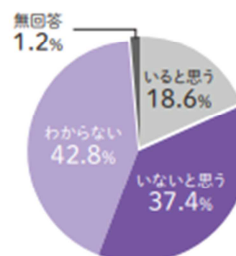
身近にいるのに見えていない!?

様々な調査によると人口の3～10%が性的マイノリティに該当するといわれています。しかし、県民意識調査（R6）で自身の周りに性的マイノリティ当事者がいるかをたずねると、80%以上の人々が性的マイノリティの存在を認識していませんでした。



性的マイノリティの割合は、約10人に1人
「左利きの人」や「AB型の人」とだいたい同じ割合

あなたの周りに、性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）の方はいませんか。



性的マイノリティの存在を認識していない人が
80.2%

出典：令和6年度静岡県の男女共同参画に関する県民意識調査

ふじのくにレインボーガイドブックより

多様な性に関する正しい知識を得る機会が少ないため、多くの人が性的マイノリティの存在に気づかない状況が生じています。そのため、実際には周りにいるにもかかわらず、いないことを前提として振る舞うことで時には差別につながる可能性があります。

3. 相談しやすい環境をつくりましょう

自身のセクシュアリティについて悩みを抱えながらも、保護者に打ち明けられない子どもたちがいます。一番身近な家族に知ってほしい反面、家族に拒絶されるのが一番怖いと思う気持ちも大きいいため、打ち明けづらさを感じています。子どもが相談しやすい環境をつくるために、正しく理解しましょう。



カミングアウトへの対応

自分自身の性的指向や性自認などを本人の意思で他人に伝えることを「カミングアウト」といいます。カミングアウトを受けたときの対応によっては、当事者を傷つけてしまう可能性もあります。まずは「話してくれてありがとう」と伝え、受け止めることが大切です。

- 慌てず、ゆっくりと本人の話を聞き、まずは共感しましょう。
- 困りごとを相談されても、無理にその場の会話で解決を図る必要はありません。本人にとって最善な意思決定ができるよう、抱えている課題を一緒に整理して検討しましょう。
- 本人の同意なく、他の人に勝手に共有（アウティング）してはいけません。「みんなが知っていた方がいいだろう」という善意であっても、本人の意向を無視してしまえば、大きな精神的負担になり、場合によっては、命にかかわる深刻な事態を引き起こすことにもなります。具体的な配慮や支援を行うために、第三者へ話す必要があるときには、必ず本人の同意を得るようにしましょう。
- 本人が、相談先を求めているときには、安心してつながることのできる相談機関や支援団体を紹介しましょう。また、相談を受けた側も一人で抱え込まず、自分自身がつながれる相談先を知っておくことも大切です。

◆相談窓口 ふじのくに LGBT 電話相談（静岡県）

0120-279-585（毎月第1火曜日、第3土曜日 18時～22時）

